

平成30年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立津幡高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
1 基本的な生活習慣の確立(挨拶の励行、規範意識の確立、清掃の徹底)	① 挨拶運動に取り組み、礼儀正しく、元気で活発な生徒を育成する。	生徒がすすんで挨拶していると思う保護者が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 85%以上である。 D 85%未満である。	A 12月の教育活動に関するアンケート (保護者) 95%	「A」評価となったのは、クラス対抗の「あいさつ運動コンテスト」や生徒会役員による「あいさつ運動ウィーク」などを切れ間なく実施した成果であると思われる。 この結果に満足せず、今後も挨拶への意識向上を図る取り組みを学校全体で実施していきたい。
	② 服装容儀の指導を徹底し、生徒の規範意識の向上を図る。	積極的に服装容儀・頭髪やマナーなどの向上に努めた生徒が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 85%以上である。 D 85%未満である。	A 12月の教育活動に関するアンケート (生徒) 95%	服装容疑・マナーについては、生徒指導をはじめ、学年や部活動などが連携して指導にあたった結果、生徒の規範意識が向上し「A」評価となった。 今後も機会をとらえて、生徒にわかりやすく服装容儀・マナーの大切さを伝えるとともに、ルールを守る態度がしっかり身に付けられるよう取り組んでいきたい。
	③ 規則正しい家庭生活を送るよう指導することで、遅刻する生徒を減少させる。	遅刻総数の前年比減少率が A 15%以上である。 B 10%以上である。 C 5%以上である。 D 5%未満である。	C 1月時点で総数は前年度より49件減少 7.1%減少	評価は「C」であったが、近年、遅刻数は減少傾向にあり、一定の成果は得られている。引き続き指導していきたい。 一方、昨年度と比較すると、欠席・早退数が2学期以降に多くなっている。インフルエンザなどの影響もあったが、安易に休まないよう生徒に意識付けしていく必要がある。
	④ 清掃の徹底により、学習環境の向上とさわやかで心豊かな学校生活の実現を図る。	環境美化委員による清掃点検で「きれいに清掃されている」、「だいたいきれいに清掃されている」の合計が A 100%である。 B 95%以上である。 C 90%以上である。 D 90%未満である。	B 12月の環境美化委員の評価では 97%	達成度97%の「B」評価であった。引き続き100%を目標に取り組んでいきたい。 清掃については、概ね学校全体に行き届いていると思われるが、清掃点検を継続して実施し、校舎内外のきれいさを維持するとともに、美化活動に対するさらなる意識向上を図っていきたい。
	⑤ 生徒の良好な人間関係づくりを支援し、不安なく充実した学校生活を送れるようにする。	学校生活に概ね満足している生徒が A 90%である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	B 12月の教育活動に関するアンケート (生徒) 80%	Q-Uによる学校生活の調査を踏まえ、気になる生徒については、スクールカウンセラーや相談担当教員による面談をきめ細かく行った。 今後は、保護者との連携を一層大事に考え、生徒への支援を充実させていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	学校施設については、老朽化は感じられるものの清掃が行き届いておりきれいである。生徒の人間関係トラブルについては、些細な理由からでも起こり得ると捉え、場合によっては第三者や専門家の意見を聞きながら早期に解決するよう取り組んでもらいたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	清掃の必要な箇所に対して生徒や教員が行き渡らず、日常の中では掃除しきれないという課題があるが、校内美化は、本校にとって重要な取り組みであるので、掃除の頻度やローテーションなどを工夫して、きれいな状態を維持したい。生徒の人間関係トラブルがあった場合は「ネットいじめ」などに十分留意し、生徒に寄り添う指導を徹底していきたい。その際、組織として対応し、状況によっては、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家を積極的に活用し、早期の解決に努めたい。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
2 授業の工夫、改善を行い、生徒の進路実現を図る。（わかる授業への授業改善、体力の増進、キャリア教育の充実による生徒の進路意識の向上）	① 教材・教具や指導方法を工夫して生徒の興味・関心を引き出し、わかりやすい授業を行うよう授業改善に努める。	わかりやすく興味・関心を引き出す工夫が感じられると答える生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である C 70%以上である。 D 70%未満である。	A 12月の生徒による授業評価では95%	「わかる授業」について、達成度95%の内訳は「あてはまる」が76.9%、「だいたいあてはまる」が17.8%であった。大部分を占める「あてはまる」と回答した生徒は、7月調査時点での71.1%から5.8%の増加となった。ICTを活用した授業も定着しつつあるので、授業改善がさらに進展するよう今後も意欲的に取り組みたい。
	② 教員間で授業見学を行い、授業力向上を図る。	各学期に1回以上授業見学を行った教員の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である C 70%以上である。 D 70%未満である。	A 12月の教育活動に関するアンケート（教職員）95%	6月・11月・2月と、互見授業期間を2週間ずつ実施した。昨年度93%、今年度95%の達成度であることから、各教員の授業改善への意識が向上してきたことが窺える。このような授業改善への取り組みが「わかる授業」の工夫へとつながっているため、互見期間以外でも、常に授業を見合って切磋琢磨できるように改善していきたい。
	③ 生徒の体力向上に努め、たくましい人間づくりに取り組む。	前年度の自己記録を超えた生徒が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	D 5月のスポーツテストで自己記録を超えた生徒は59%	体育の授業や部活動などで体力向上を図ったが「D」評価となった。男女別では、男子は71%の達成度であったが、女子は45%にとどまった。総合学科の女子の体力向上が課題となっているので、記録の下位層をターゲットにして改善に取り組み、全体の底上げを図りたい。
	④ 一人一人の生徒に対してしっかりと進路指導を行い、確実な進路希望の実現を図る。	進路内定・決定率が A 100%である。 B 95%以上である。 C 90%以上である。 D 90%未満である。	B 1月時点で 就職内定 100% 進学内定 98.6%	就職に関しては地域の企業に支えられて、順調に内定を得ることができた。ただ、就農を希望する生徒の内定が遅くなる傾向があるので、生徒が不安に感じないように配慮したい。進学に関しては、有名私立大学に例年以上の合格者を輩出することができ、充実していた。「B」評価は1月末時点のものであるが、3月末現在、進学も100%となっている。
学校関係者評価委員会の評価	生徒たちの多くは進路が決定し、就職・進学ともに例年以上の成果が出ているようである。このような成果があげられたことについて、何が良かったのかしっかりと分析して次年度以降につなげてもらいたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<p>就職については、本校の希望者83名に対して、県内の求人募集が600件にのぼった。多くの求人から受験する企業を絞り込む際、実際に企業を訪問して、仕事の現場を見学させたことが生徒の就職意欲を喚起し、内定率100%につながったと考えられる。今後も県教育委員会より配置されている就職支援教員を活用し、求人企業の開拓に努めるとともに、就職に関する相談・支援をきめ細かく行うことで生徒の希望に応じていきたい。</p> <p>また、進学については、補習体制を充実させ、推薦入試・AO入試・一般入試などの様々な機会を利用して、上級学校への合格を果たせるよう指導している。進学に関する課題は、これから変わる大学入試にしっかり対応していくことであるが、日常の補習や授業の在り方を含めて早急に検討・改善していきたい。</p> <p>生徒の進路に関しては、入学後の早い段階で進路意識の形成を図ったり、補習や面接指導を繰り返し実施したりするなど、教職員が一丸となって引き続き指導にあたりたい。</p>			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
3 部活動の計画的な実施による効率的・効果的な生徒の技術向上と生徒会活動の活性化（全国大会での上位入賞、生徒会活動の充実）	① 県内トップレベルの競技力を維持し、全国大会に出場できる各種トレーニングを行う。	全国大会に出場した運動部が A 7部以上である。 B 6部である。 C 5部である。 D 5部未満である。	A 全国高校総体に8部出場 (男女柔道、女子バスケットボール、なぎなた、ウエイトリフティング、陸上、ボート、射撃)	スポーツ健康科学科だけでなく、総合学科の生徒（陸上、射撃）の活躍もあり、8部が全国大会に出場することができた。全国大会では、ウエイトリフティング部がインターハイで個人2位、女子バスケットボール部がウインターカップでベスト4に入るなどの成績を収めた。 全国大会で活躍したいという生徒の意識も高まっており、運動部のさらなる競技力向上に取り組んでいきたい。
	② 部活動を計画的に実施し、科学的な理論に基づき効率的・効果的に生徒の技術向上を図る。	部活動が計画的で充実していると思う生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 60%未満である。	B 12月の教育活動に関するアンケート (生徒) 82%	各部においては、月ごとの計画表を作成し、鍛錬と休養のバランスに配慮しながら、効率的・効果的な競技力の向上に取り組んだ。 生徒は意欲的に部活動に取り組んでいるが、休養日の過ごし方など、コンディションづくりへの意識に不十分な面が見られるので、この点の啓発に努め、けが等の予防につなげていきたい。
	③ 生徒会執行部の企画力・実行力を育み、活動を充実させるとともに、各種の行事を成功させ、学校生活の充実を図る。	生徒会活動が活発に行われていると思う生徒が A 75%以上である。 B 65%以上である。 C 55%以上である。 D 55%未満である。	A 12月の教育活動に関するアンケート (生徒) 77%	一昨年度57%、昨年度61%と年々達成度が上がってきている。「あいさつ運動ウィーク」の実施や各種ボランティア活動への参加の呼びかけ、津高祭や体育祭の成功などが集計結果に反映されたものと考えられる。 今後も生徒の学校生活の充実に向けて、生徒会の取り組みを充実させていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		運動部の活躍は喜ばしい限りであるが、文化部の活動においても生徒を生かし、生徒を伸ばすことができると思うので文化部にも力を入れてほしい。また、部活動に熱心に取り組んでいる先生のプライベートは大丈夫なのかと心配になることがある。先生方の休養にも配慮しながら活力ある学校づくりを目指してほしい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		運動部に関しては、自分の競技力を向上させ、大会でよい成績を収めたいという強い思いを持って日々頑張っている生徒が多い。一方、文化部に関しては、つらいことを避けるために入部しているというケースもあり、積極的に活動したい生徒との間に温度差が生じて、なかなか活性化しないという課題がある。文化部の活動に力を入れている他校での取り組みなども参考にしながら、多くの生徒が活躍する場を作っていきたい。 また、部活動の部員および顧問の休養に関しては、県が定めるガイドラインに沿って、計画的に休むことを徹底していきたい。「きちんと体を休めることも練習である」との共通認識を持って、効果的・効率的な競技力向上を目指していきたい。		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
4 地域・保護者との連携（保護者懇談会の充実、ボランティア活動への生徒参加促進）	① 学校通信（校内、地域）の発行やHP・学校メール配信により学校情報をきめ細かく発信する。	学校のHPや学校メールの発信に満足している保護者の割合が A 85%以上である。 B 75%以上である。 C 65%以上である。 D 65%未満である。	B 12月の教育活動に関するアンケート（保護者）83%	83%の保護者が「満足している」との回答であったが、お問い合わせが多かった奨学金関係の書類の作成方法や提出期限などについては、一斉配信メールやホームページなどを使い、丁寧にお知らせするなどの改善策を講じていきたい。 また、学校行事や各部の大会成績など、常に新鮮な情報がホームページで閲覧できるよう一層努めたい。
	② PTA総会や学校公開等の参加者を増やし、保護者や地域に対して本校の教育活動を理解してもらおうよう働きかける。	PTA総会や学校公開等の保護者の参加率が A 30%以上である。 B 20%以上である。 C 10%以上である。 D 10%未満である。	B 5月のPTA総会・学校公開時の参加率は22%。出席者95名。	PTA総会等への参加者は、前年度の96名に対して今年度は95名であった。保護者の参加率に関しては、まだまだ引き上げが必要である。 そこで、学校運営に対して関心を持ってもらえるように情報発信に工夫するとともに、PTA総会や学校公開などにおいては、保護者の興味に沿った講演会等を企画して、参加者増を図りたい。
	③ 様々なボランティア活動に参加する生徒を増やし、社会経験を豊かにし、他者と協働する意識を高める。	様々なボランティア活動に参加したと答える生徒の割合が A 60%以上である。 B 50%以上である。 C 40%以上である。 D 40%未満である。	B 12月の教育活動に関するアンケート（生徒）54%	「B」評価であったが、年度当初から多くの生徒が様々なボランティア活動に参加していた。「あいさつ運動コンテスト」などの実施もよい効果を生んでいるように思われる。 今後もボランティア活動への参加を一層促し、清掃や挨拶運動など、他の取り組みとも一体となって、生徒の協働意識を高めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	津幡高生がボランティアとして地域行事に参加していることは、地域の中で他者と交流するよい機会となっており、生徒の人格形成に大きく寄与することと評価している。一方で、土日などの休日になってしまうことが多いので、働き方改革の流れに反しないか、生徒は多く集まるのか、などということが心配に感じるので、それらの点において配慮をお願いしたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	生徒からはボランティア活動を楽しむ声が多く聞かれ、積極的に参加する生徒が年々増えてきている。一方、ボランティアの引率教員については、特定の教員に負担がかからないよう、また、十分に休養がとれるよう配慮していきたい。今後も様々な形で外部と関わり、地域に協力を仰ぎながら生徒の成長を促すためにボランティア活動を推進していきたい。 また、地域や保護者との連携は学校運営において、重要な課題と捉えているが、どちらか一方からの働きかけではなく、互いに何ができるか、何をしてほしいかといったことについて情報交換を行くことが必要である。そこで、学校評議委員会や学校関係者評価委員会に限らず、文化祭や学校公開など、保護者等が参加する様々な場面で意見を求めたり、情報発信を通して学校の教育活動を知ってもらったりするよう努めていきたい。			